

藤城清治美術館【大特集】



わたくし宇賀神が特別にレポートさせていただきます！

たくさんの作品、見ごたえたっぷりです。

今回スタッフの岡本さんにお話をうかがいながら、私が特に気になった作品のお話をうかがいました。



「つり橋はぼくのハーブ」

橋の上に佇む男の子と女の子。
頭上には天の川がきらきらと輝いております。
この星のきらきらも影絵なんだと知ったとき、新しい世界に足を踏み入れた気がしました。
すごくきれいで、すごく素敵で、ずっと見ていたい一枚です。
岡本さんからは、光の描き方に藤城先生の素晴らしいさがみられる、と教えていただきました。棒にとらわれない自由な心がこのきらきらを生み出したんだなぁと思うと、さらにこのきらきらに目がとまります。他にもたくさんの作品で光が描かれていますが、月の光として時に神秘的に、炎の光として時にあたたかく、光は作品の印象をより深く伝えてくれているような気がいたしました。

1. 藤城先生が新潟県の海で見た風景。新潟出身の高木さんがどこか懐かしいと言っていました。
2. 床にも影絵がゆらゆら。自分もちゃっかり参加しています。



女の子の目線の高さが一緒です。見守られているそうです。



「たくさんのこびとくんと一緒に」

この作品にはどんな物語があるのだろう。最初にそう思いました。
ピエロもこびとも相変わらず楽しそうなのですが、魔法使いと燃えさがる炎がちょっとこわい。そんな印象でした。再生の炎とは何ぞや。

「魔法の森に燃える再生の炎」



とても大きな作品です。

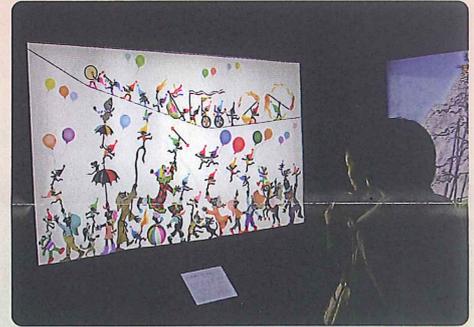


作品の前の水面をあえて揺らしているそうです。水面に映る作品もゆらゆらして幻想的です。

あれこれ勝手にストーリーを考えているうちに、思い出したのは美術館の入り口に書かれていた藤城先生のことば。

「主役はむしろ演じ描く側よりも会場で見える観客側にあるといいだろう」

細かな解説のない絵については、絵を見た人それぞれが絵のストーリーを考える。想像をかき立てて、楽しくなって、その楽しさを共有する。正解も間違いも無いのかもしれないけれど、いつか藤城先生のストーリーを聞いてみたいなぁと思いました。



楽しい瞬間を切り取ったような一枚。まるで写真のよう。

藤城先生の作品によく登場するこびと。彼は何者なのか。ずっと気になっておりました。このかわいいこびとくんは、藤城先生のパートナーなのかなぁ...と思っておりました。楽器を奏でていたり、踊っていたり...今にも音が聴こえてきそう。楽しい瞬間を切り取ったような作品です。この作品の解説の中で藤城先生は誰の心にもこびとがいることを願っている、とおっしゃっております。自由な遊び心、楽しむ心、無邪気な心。そんな気持ちの象徴がこびとくんなんですね。作品を見ているだけで元気が出てまいります。



藤城先生のアトリエを再現した場所です。作品を作る藤城先生のお写真もあります。



昔からずっとこの種類の刺刀を使用しているそうです。刃がむき出しなので誤って手を切ってしまうこともあるのだとか。



カフェの椅子もこびとくん仕様です。かわいい。

●藤城清治美術館 ●開館時間 午前9時30分～午後6時 ●休館日 火曜日

※那須町観光協会取扱いチケットを、山水閣でもお求めいただけます



編集後記

今年の冬は寒いというお話を聞きますが今のところは例年通りの冬がきたなぁという感じがいたします。
空気が澄んでしゃんとしたり朝焼けがきれいだったり相変わらずの那須でお待ちしております。

那須高原の宿 SANSUIKAKU

山水閣

那須高原の宿 山水閣 www.sansuikaku.com

発行 山水閣だより編集部

〒325-0301 栃木県那須郡那須町湯本206
TEL 0287-76-3180 FAX 0287-76-3080
http://www.sansuikaku.com

那須別邸 回 www.bettei-kai.jp

ウエディング TheOne www.nasu-theone.com